

ポスター報告 4

久保 美奈 広島大学教育学研究科

#報告題目 「社会モデル実践」における社会科教育の可能性

#報告キーワード 社会モデル インクルーシブ教育 社会科教育

#報告要旨

本報告の目的は「社会モデル実践」の場としての社会科教育の可能性を示すことである。杉野（2007）は、障害学の実践課題の一つとして「障害者個人ではなく、障害者を取り巻く環境に働きかける『社会モデル実践』を育てていくこと」（p.255）を挙げているが、社会モデルを実践に落とし込む際、その議論の俎上に上がる臨床現場とは、「障害者」に対する援助現場や制度に働きかけるための障害者運動の中であることが多い。これは「障害者」がそのような領域との関係性で多く現れてきたからだと言えよう。しかしながら近年、「発達障害」の浸透や、それに伴う医療現場の「早期発見・早期支援」の推進によってか、通常学級や「一般社会」において「障害者」が現れることが多くなり、「障害者」と「健常者」との摩擦は様々な領域で顕在化しつつある。そのため、現社会構造の適応に努めるより多くの人々の認識枠組みを変革する、「インクルーシブ社会」実現のための「社会モデル実践」の場が用意されねばならない。そこで本報告が提案するのが社会科という学校教育領域における「社会モデル実践」である。

「社会モデル実践」と社会科教育にはどのような親和性があるのか。社会科教育は、民主主義社会における市民的資質の育成を目指す教科である。民主主義を学習することを「差異から学習することであり、わたしたちと異なる他者とともに生きることを学習すること」（ビースタ：2014：152）とするならば、様々な社会的分断を越え、多様な人々を包摂する民主的な社会を形成しようとする力を育成することは社会科教育の責務であると言える。それゆえ、「障害学における中心的な概念」である「インクルーシブ社会」、すなわち「障害を、インペアメントを持つ個人の問題としてではなく、インペアメントを持つ個人に対する社会の問題として認識し、そのような社会的障壁を除去することを社会の課題として把握し、インペアメントを持つ人の社会参加にむけた継続的な取り組みを指向する社会」（岡島：2016：20）を社会科教育は目指す必要がある。その際、学びの対象に社会を置きやすく、

さらには批判的な社会の見方・考え方を育成することを是としてきた社会科教育は、障害の認識枠組みである「社会モデル」を教育内容に組み込みやすく、「一般社会」に生きる子どもたちに対し、障害問題の意識化を目指す実践を行いやすいと考えられる。

社会科教育において「社会モデル実践」が試みられる意義は大きく2つ挙げられよう。一つは、援助現場に関わる人のみならず、学校で学ぶ様々な子どもたちに「社会モデル」の視点を育成するための示唆を得ることができることである。「職業的実践の枠組みのなかでは、社会を変えるどころか、職場や家族関係など、特定の障害者個人の周囲の状況を変えることすらままならないことが多い」（杉野：2007：252）。それゆえに、「インクルーシブ社会」実現のためにはできるだけ多くの人が障害問題の当事者になる必要があるだろう。もう一つは、社会科教育において「社会モデル実践」が励まれることで、「個人モデル」的实践に偏りがちな教育領域にメスを入れることができることである。現在日本の教育界隈では「誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会」である「共生社会」の形成に向け、「障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」であるインクルーシブ教育システムの構築が進められている。しかし、その中で行われている実践は「合理的配慮」や、実質的には個別学習支援と化している学びのユニバーサルデザインのような「個人モデル」寄りの実践に偏っている。「社会モデル」の視点を取り入れた実践を試みることで、「所与の社会に適応する力だけでなく、社会を担い、『よりよく』つくりかえていく力を育む（ここでの「よりよく」とは、社会から排除されがちな「マイノリティ」が生きていきやすいという意味である）」（若槻：2015：132）必要性を訴えることができるだろう。

以上より、本報告では、批判的に社会を捉える授業の事例を示しながら「社会モデル実践」の場としての社会科教育の可能性を示したいと考える。なお、本報告では文献調査のため個人のプライバシーに関わるデータは使用しておらず、その他の研究倫理についても遵守する。

文献

ガート・ビースタ著、上野正道・藤井佳代・中村（新井）清二訳（2014）『民主主義を学習する』勁草書房

杉野昭博（2007）『障害学 理論形成と射程』東京大学

岡島実（2016）「沖縄県インクルーシブ社会条例——その到達点と課題」『障害学研究 11』明石書店、pp.16 - 24

若槻健（2015）「『排除』に対抗する学校」教育社会学研究第96集、pp.131 - 152

